

堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いさものの通信



ヘビイチゴ

2026 秋 号

堺にすむ

いきものたち



ホコリタケ



ケリ



アトリ



ニホンアカガエル



マイコアカネ



ヤマトシジミ



ヒドリガモ



シマアゲロヒヨウモン



ホトケノザ

生物多様性とは、単に多くの動植物が存在するという状況を指すだけではありません。地球上にはさまざまな環境があり、その中で生き物同士が「食べる・食べられる・共に生きる」といった多様な関わりを持ちながら成り立っています。このように、多様な生物が相互に関わり合い、生態系を構成していることを生物多様性といいます。

こちらで紹介する生き物の写真は、すべて堺市内で撮影されたものです。WEBサイト「堺いきもの情報館」に、市民の皆さまからご投稿いただいた写真を掲載しています。それぞれの生き物がもつ特徴や、彼らが暮らす環境の姿を通して、堺に広がる生物多様性を感じてみてください。生物多様性は、私たちの身近な日常の中に確かに息づき続けています。

いき
もっと もの知りになれる！
生物多様性のおはなし

変わり続ける生き物の分類

最近の歴史の教科書を見たことはありますか。かつて鎌倉幕府の成立は「1192年（いいくに）作ろう鎌倉幕府」と覚えましたが、現在は「1185年（いいはこ）作ろう鎌倉幕府」と覚えることが一般的です。新しい研究成果によって、これまでの定説が見直されることがあるのです。

実は、生き物の分類も同じです。昔は見た目や鳴き声、行動などを基に分類されていましたが、近年は遺伝子解析によって、より詳しく生き物の違いが分かるようになりました。

例えば、田んぼなどで見られる身近なカエル「ニホンアマガエル」。遺伝子を調べた結果、東日本と西日本の集団は別の種類であることが分かり、「ニホンアマガエル」と「ヒガシニホンアマガエル」に分けられました。近畿地方付近が両種の境界とされ、堺市内には「ヒガシニホンアマガエル」が生息すると考えられています。

魚類にも大きな変化があります。スズキ目という魚類で一番大きな分類の代表的な魚である「スズキ」は、遺伝子解析により、これまで考えられていたよりも「ホタルジャコ」に近い仲間であることが分かりました。そのため、スズキ目からホタルジャコ目に移る可能性が高いようです。スズキがいなくなったスズキ目は今後、名称を含めて分類体系が変更される可能性があります。

このように、生き物の分類は新しい発見によって少しずつ更新されています。私たちの身近な生き物にも、まだ知られていない秘密が隠れているかもしれません。



《編集・発行》

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL : 072-228-7440 / FAX : 072-228-7317

E-mail : kankyo@city.sakai.lg.jp



WEBサイト
トップページ



Instagram
アカウント